

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 7 月 17 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (7/17 11:00 時点)

| 号機 | 注水状況 | | 原子炉压力容器 下部温度 | 原子炉格納容器 圧力* | 原子炉格納容器 水素濃度 |
|-----|-----------|---------------------------------|-----------------|----------------|------------------------------|
| 1号機 | 淡水 注入中 | 炉心スプレイ系：約 1.9 m ³ /h | 37.9 | 106.3 kPa abs | A系:0.04 vol% B系:0.03 vol% |
| | | 給水系：約 3.4 m ³ /h | | | |
| 2号機 | 淡水 注入中 | 炉心スプレイ系：約 5.8 m ³ /h | 50.1 | 5.66 kPa g | A系:0.10 vol% B系:0.11 vol% |
| | | 給水系：約 3.0 m ³ /h | | | |
| 3号機 | 淡水 注入中 | 炉心スプレイ系：約 5.1 m ³ /h | 49.4 | 0.18 kPa g | A系:0.24 vol% B系:0.23 vol% |
| | | 給水系：約 3.3 m ³ /h | | | |

*絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (7/17 11:00 時点)

| 号機 | 冷却方法 | 冷却状況 | 使用済燃料プール水温度 |
|-----|----------|------|-------------|
| 1号機 | 循環冷却システム | 運転中 | 28.0 |
| 2号機 | 循環冷却システム | 運転中 | 28.8 |
| 3号機 | 循環冷却システム | 運転中 | 27.4 |
| 4号機 | 循環冷却システム | 運転中 | 35 |

*各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

【4号機】・4/27 16:03 原子炉ウェルおよび使用済燃料プールの塩分除去を目的として新たに設置した塩分除去装置(モバイルRO装置)の運転を開始。
7/13 これまで、同装置による使用済燃料プールの塩分除去を行っていたが、原子炉ウェル側の準備が整ったことから、試運転を開始。
7/14 14:20 運転状態に問題がないことから、同装置による原子炉ウェルの塩分除去の本格運転を開始。今後、塩分濃度の状況を見ながら原子炉ウェルと使用済燃料プールを適宜切り替え、同装置による塩分除去を実施する予定。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

| 号機 | 排出元 → | 移送先 | 移送状況 |
|-----|---------------|--|-----------------------------|
| 1号機 | 1号機 タービン建屋 | → 2号機タービン建屋 | 7/14 10:39 ~ 7/15 9:09 移送実施 |
| 2号機 | 2号機 タービン建屋 | → 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)] | 7/12 10:43 ~ 移送実施中 |
| 3号機 | 3号機 タービン建屋 | → 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)] | 7/12 10:31 ~ 7/15 8:42 移送実施 |
| | 3号機 タービン建屋 | → 集中廃棄物処理施設 [プロセス主建屋] | 7/15 8:57 ~ 7/16 9:48 移送実施 |

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (7/17 7:00 時点)

| 設備 | セシウム吸着装置 | 第二セシウム吸着装置 (サリー) | 除染装置 | 淡水化装置 (逆浸透膜) | 淡水化装置 (蒸発濃縮) |
|------|----------|------------------|------|--------------|--------------|
| 運転状況 | 停止中 | 運転中* | 停止中 | 水バランスをみて断続運転 | 水バランスをみて断続運転 |

*フィルタの洗浄を適宜実施。

- H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- H24/6/21 12:05 H1スキッド内のバルブ交換工事を行うために、セシウム吸着装置を停止。停止期間は約1ヶ月の予定。なお、バルブ交換工事期間中は第二セシウム吸着装置による処理を継続予定であり、滞留水処理、原子炉注水については問題ない。
- H24/6/23 10:15 頃 淡水化装置(逆浸透膜式)2において、水処理するための高圧ポンプグランド水を受けるポリタンクから水が溢れていることを、当社社員が確認。溢れた水は約 6.6 リットルであり、同装置の堰内にとどまっており、建屋外への流出はない。10:30、淡水化装置(逆浸透膜式)2を停止し、当該ポンプを隔離。水たまり付近の雰囲気線量率および水たまりの表面線量率はガンマ線、ベータ線ともに 0.1mSv/h 未満。その後、漏れいした水をサンプリングした結果、ヨウ素 131 が検出限界未満(検出限界値: 7.0×10^{-1} Bq/cm³)、セシウム 134 が 2.6×10^0 Bq/cm³、セシウム 137 が、 3.9×10^0 Bq/cm³、全ベータが 9.0×10^4 Bq/cm³ であった。
- 7/13 当該ポンプのグランド部の修理(部品交換)および隔離していた系統による試運転を実施し、運転状態に問題がないことを確認したことから、本格運用に移行。

<5. その他>

- H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/6 ～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/14～ 港湾内の海底土拡散防止を目的として、固化土(被覆材)による海底土被覆工事の本格施工に着手。
- H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

以上